

2010 年香港日本語学習者背景調査報告

木山 登茂子/中野 貴子/周 宏陽/上田 早苗
望月 貴子/蘇 凱達/青山 玲二郎
香港日本語教育研究会

1. はじめに

香港は、2009 年国際交流基金日本語教育機関調査（速報値）によると学習者人口は 28,224 人を数え世界第 9 位であり、上級に達する学習者も多く、日本語学習の盛んな地域であるといえる。日本製品、日本の食品が流通し、人の往来も盛んで、日本に関連する情報も豊富である。このような香港の特性をいかした学習のあり方を考察する上で、学習者の特性を把握する基礎資料となる調査が必要との考えから、香港日本語教育研究会（以下、研究会）は 2010 年香港学習者背景調査（以下、2010 背景調査）を実施した。

2. 目的

本調査は、学習者の背景を次の 5 つの観点から把握することを目的とする。

- (1) 日本についての体験・経験
- (2) 日本についての情報や知識の入手方法
- (3) 日本への関心
- (4) 学習目的
- (5) 持続進修基金(以下、CEF と略す)^{注1}の利用状況

これらの背景に年齢とレベルによる違いはあるか、ないか、また、あるとしたらそれは何かを明らかにする。そして、現実の教育実践に役立つ資料を提供することを目標とする。

3. 先行文献と 2010 背景調査の関係

- 1) 幅広い年齢層や教育段階の学習者についての調査としては、現在 3 年ごとに実施されている国際交流基金の海外日本語教育機関調査（以下、JF 機関調査）がある。本調査の「2. 目的」(4) の質問項目は 2009 年度 JF 機関調査の質問項目を利用している。
- 2) 先行文献には、香港の日本語学習者の学習動機を「趣味」（原（1994）、斉藤（1995）板井（2001）山口（2004）等）ということばで特徴付けるものが多い。近年の研究では「情意的動機と道具的動機を矛盾なく持ち合わせる」（Humphreys et al.（2007））という知

見や、社会人学習者の動機の変化を論ずるもの（ギブソン（2009））などがあるが、これまでの研究では1機関内、または特定の教育段階での調査にもとづいている。本調査では幅広い学習者層の学習目的を詳細に記述することを目指す。

- 3) 調査結果をもとに日本語学習者の日本語使用行動と意識を分析したものには、国際交流基金（2009）がある。これは、国際交流基金の事業評価手法を探索するための調査（国際交流基金（2007）、真鍋他（2008））のうちドイツの調査結果を再分析したものである。本調査の「2. 目的」（1）（2）（3）の質問項目とそのクロス集計の手法は、これらの調査者の承諾を得て援用した。
- 4) ①③に述べたように質問項目は交際交流基金（2007）、真鍋他（2008）の項目と2009年度 JF 機関調査を利用しているが、2009年12月に実施した予備調査の結果、香港の学習者の特徴をより鮮明に浮かび上がらせるため、「2. 目的」（1）（2）（4）について新たな項目を追加した。

4. 調査方法：

- 1) 対象：香港の日本語学習者
- 2) 依頼方法：2010年8月上旬に研究会ウェブサイトにて調査への協力依頼を掲載する。また、日本語教育機関にポスターを掲示する。教育関係者を通して協力依頼メールを転送する。
- 3) 調査方法：研究会ウェブサイトに調査アンケートを掲載する。協力者は質問項目について直接入力する方法で回答し、それを研究会のサーバーに保存する。
- 4) 質問内容と回答法：協力者情報（生年、日本語能力試験受験レベル^{注2}、「学習の場^{注3}」、母語、メールアドレス）と、(1)日本についての体験・経験、(2)情報入手法、(3)関心、(4)日本語学習目的、(5)CEFの利用状況を質問する。協力者情報調査票は添付資料1を参照されたい。(1)(2)(4)は項目ごとに「はい/いいえ」から一つを選び回答する。(3)は4段階の尺度の中から該当するものを選び回答する。
- 5) 集計方法：質問票の回答（日本についての体験・経験、情報入手法、関心、日本語学習目的）と、受験レベル、年齢、をクロス集計する。また、CEFの利用と、年齢、申請時の能力試験受験レベルをクロス集計する。

5. スケジュール

調査のスケジュールは図1の通りである。

調査期間実施期間は、2010年8月24日から10月4日である。

年	2009年			2010年			2011年				
月	11月	12月	1月	2月	4月	6月	7月	8月	9月	2~3月	5月
調査計画	調査計画										
1次調査	調査票作成	予備調査	調査票改定、国際交流基金への助言依頼	システムの構築	調査票イラスト作画依頼	国際交流基金関係部署へ協力依頼	調査票、依頼文完成	調査票記入依頼 調査実施 →	回答集計開始		
2次調査										2次調査計画 →	
発表										1次調査報告執筆	報告を『日本学刊』14号に掲載、ホームページで公開

図1 調査スケジュール

6. 集計結果

6.1 調査協力者

調査期間に得られた回答は1133件、うち有効回答1123件^{注4}、有効回答の協力者の内訳は以下の表1～表5の通りである。

年齢の幅	
最年少	10歳
最年長	59歳

表1 年齢の幅

年齢(歳)の内訳		
10-19	175	15.58%
20-29	652	58.06%
30-39	183	16.30%
40-49	86	7.66%
50-59	27	2.40%

表2 年齢の内訳

2010年香港日本語学習者背景調査報告

日本語能力試験受験級、及び、受験相当級		
N1	296	26.36%
N2	216	19.23%
N3	192	17.10%
N4	179	15.94%
N5	240	21.37%

表3 日本語のレベル

「学習の場」		
1. 初等教育機関（小学校）	0	0.00%
2. 中等教育機関（中学校）	7	0.62%
3. 高等教育機関（大学 日本語専攻）	206	18.34%
4. 高等教育機関（大学 日本語専攻以外）	226	20.12%
5. その他の日本語教育機関（民間日本語学校）	501	44.61%
1.～5.以外	183	16.30%

表4 「学習の場」

母語		
中国語（広東語）	1072	95.46%
中国語（普通話）	30	2.67%
英語	11	0.98%
中国語（広東語・普通話以外の漢語方言）	5	0.45%
スウェーデン語	1	0.09%
日本語	3	0.27%

表5 母語

属性のうち母語は、95.46%が広東語を占め、その他言語の割合が微小であるため、言語別の差異の探索は行っていない。

2010背景調査の協力者は高等教育機関（大学）の学習者が全体の38.46%を占めており、2009年JF機関調査の割合より高くなっていることが特徴である（表6参照、以下、学習機関を表す用語は表4で用いた（ ）内の用語で統一する）。この割合の差は、インターネットを使った調査という

調査の手法と、広報手段（大学関係者の協力で学習者への協力依頼メールが幅広く転送できたこと）が理由として考えられる。JF 機関調査においては、機関代表者によって回答が記入されるので、機関に属さない個人学習などの学習者は学習者数に含まれていない。

調査	小学校	中学校 ^{注5}	大学	民間日本語学校	その他
JF 機関調査	2.82%	8.41%	10.87%	77.89%	
2010 背景調査	0.00%	0.62%	38.46%	44.61%	16.30%

表 6 2009 年国際交流基金機関調査との比較

レベルについては、N1N2 を上位群、N3N4N5 を下位群としてみると^{注6}、2010 背景調査では、上位群 45.59%、下位群 54.41%で、2010 年日本語能力試験応募者に比し、上位レベルの割合が高い。

レベル	第 1 回	第 2 回	合計	
N1	979	1426	2405	} 上位群 5534 名 (38.87%)
N2	1290	1848	3138	
N3	1190	1277	2467	
N4		2702	2702	} 下位群 8719 名 (61.13%)
N5		3550	3550	

表 7 2010 年日本語能力試験香港応募者の内訳

6.2 協力者属性

①10 代は他の年齢に比し、下位群の人数が多いが、他の年齢層は上位群と下位群に大差がない。

年齢（歳）	上位群（名）		下位群（名）	
10-19	59	5.25%	116	10.33%
20-29	308	27.43%	344	30.63%
30-39	88	7.84%	95	8.45%
40-49	43	3.83%	43	3.83%

年齢(歳)	上位群(名)		下位群(名)	
	人数	割合	人数	割合
50-59	14	1.25%	13	1.16%
合計	512	45.59%	611	54.41%

表8 年齢とレベル集計

②10代、20代は、他の年代に比し、大学で学んでいる学習者が多い。30代以上は過半数が民間の日本語学校で学習している。

年齢(歳)	中学校	大学	民間日本語学校	その他
10-19	7	159	97	33
20-29	0	219	219	93
30-39	0	32	109	42
40-49	0	17	58	11
50-59	0	5	18	4
合計	7	432	501	183

表9 年齢と「学習の場」集計

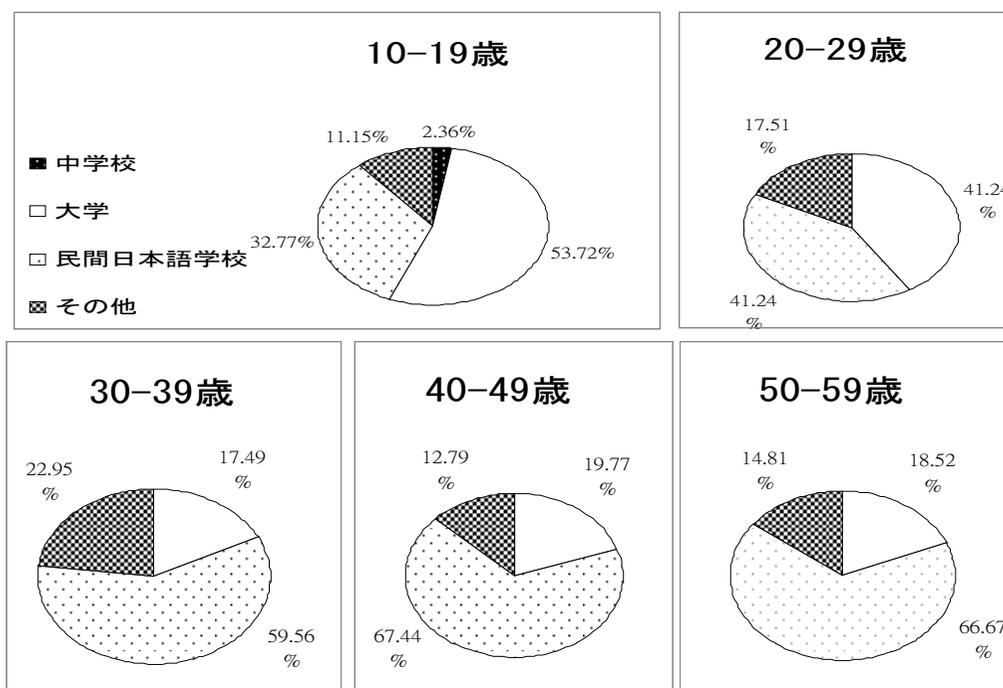


図2 年齢ごとの「学習の場」の割合

③上位群は、下位群と比べると特定の学習機関に行かない学習者の割合が高く、下位群の中では民間日本語学校で学ぶ学習者の割合が高い。

レベル	中学校	大学	民間日本語学校	その他
上位群	1	210	177	124
下位群	6	222	324	59
合計	7	432	501	183

表 10 レベルと「学習の場」

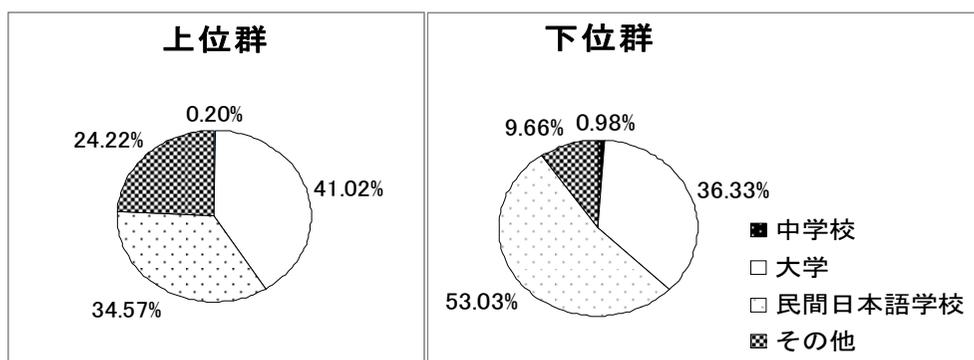


図 3 レベルと「学習の場」の割合

6-4 回答の集計結果

(1) 日本についての体験・経験

全体の結果は図 7 の通りである。

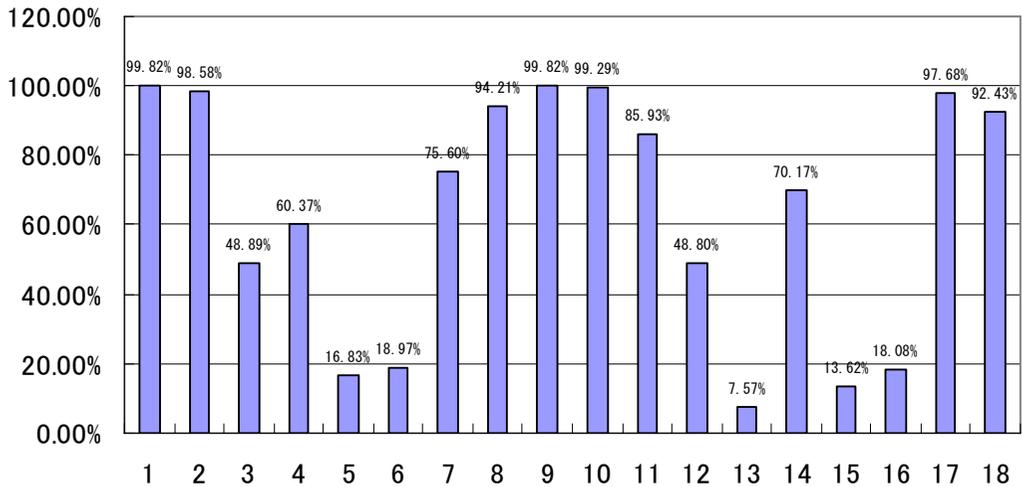
年齢による違いは、項目「5. 日本企業・日系企業で働いたことがある」、「6. 日本企業・日系企業と取引をしたことがある」、「13. 仕事で日本に行ったことがある（駐在を含む）」、の仕事に関連する項目で 10 代、20 代の割合が低いこと、「15. 留学で日本に行ったことがある」では、20 代、30 代の割合が比較的高いことである。さらに「18. 日本のゲームで遊んだことがある」は 50 代の割合が低い点が目立つ。

レベル別には、項目「3. 日本に関する展覧会・公演・講演会などに行ったことがある」、「5. 日本企業・日系企業で働いたことがある」、「6. 日本企業・日系企業と取引をしたことがある」、

「7. 日本人作家の本を読んだことがある」、「12. 日本人の友人・知人がいる」、「15. 留学で日本に行った」、「16. 日本の柔道・華道・茶道・剣道などを習ったことがある」が上位群の割合が高い。詳細は添付資料2を参照されたい。

なお、項目「17. 日本についてのインターネットの記事を読んだことがある」と「18. 日本のゲームで遊んだことがある」の2項目は、国際交流基金（2007）、真鍋他（2008）に無い、本調査で新たに追加した項目である。

日本についての体験・経験(全体)



- ① 日本の製品や商品を購入した
- ② 日本の料理屋、レストラン、居酒屋、パブ、バーなどで飲食した
- ③ 日本に関する展覧会・公演・講演会などに行った
- ④ 日本の航空会社を利用した
- ⑤ 日本企業・日系企業で働いた
- ⑥ 日本企業・日系企業と取引をした
- ⑦ 日本人作家の本を読んだ
- ⑧ 日本の雑誌を読んだ
- ⑨ 日本映画・テレビ番組・アニメ・マンガを見た
- ⑩ 日本の音楽・歌謡・jポップ・民謡をきいた
- ⑪ 学校の授業・講義で日本のことを学んだ
- ⑫ 日本人の友人・知人がいる
- ⑬ 仕事で日本に行った（駐在を含む）
- ⑭ 観光で日本に行った
- ⑮ 留学で日本に行った
- ⑯ 日本の柔道・華道・茶道・剣道などを習った
- ⑰ 日本についてのインターネットの記事を読んだ
- ⑱ 日本のゲームで遊んだ

図7 日本についての体験・経験(全体)

(2) 日本についての情報や知識の入手方法

全体の結果は図8の通りである。詳細は添付資料3を参照されたい。

年齢別には、10代が「15. 家族から聞いて」の割合が他の世代より高く、「11. 政府機関の広報誌」、「14. 学校の授業、教科書」、「18. 日本政府観光局」の割合が低い。

レベル別には、上位群が「12. 在香港日本国総領事館」と「17. 香港日本語教育研究会」の割合が高い。

なお、「17. 香港日本語教育研究会」と「18. 日本政府観光局」の2項目は、国際交流基金(2007)、真鍋他(2008)に無い、本調査で新たに追加した項目である。

日本についての情報や知識の入手方法(全体)

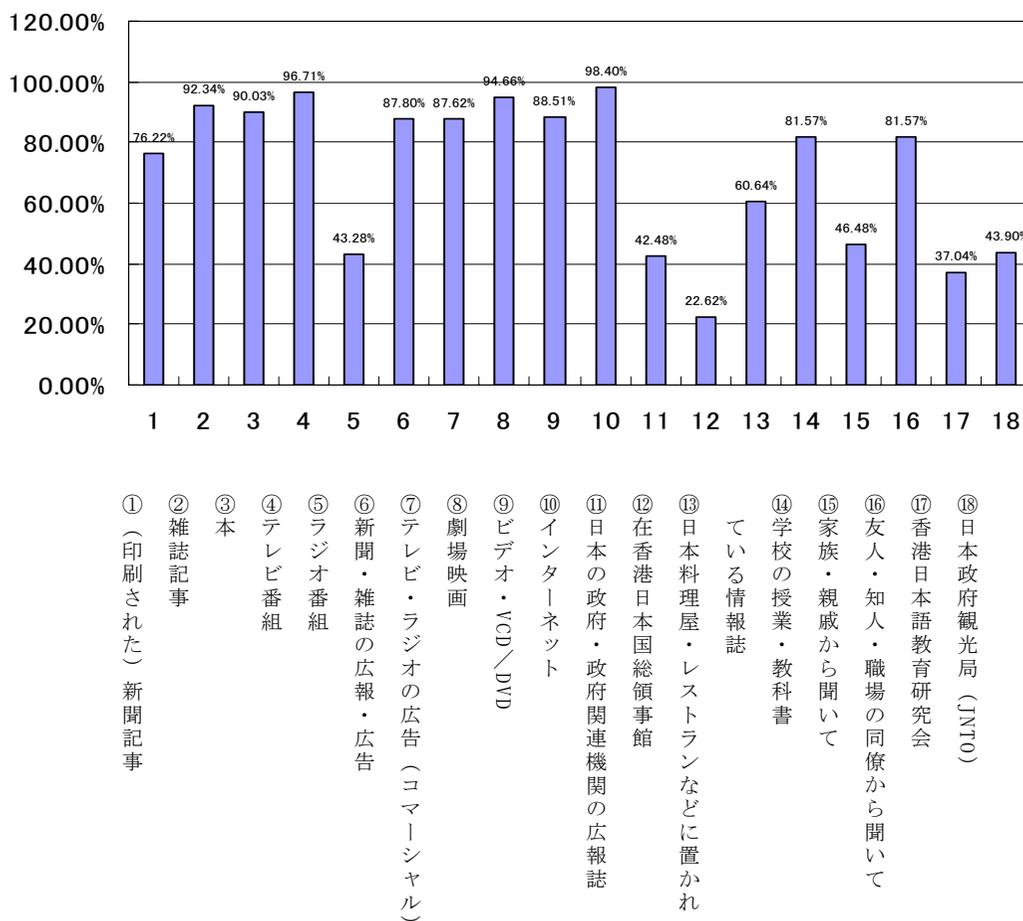


図8 日本についての情報や知識の入手方法(全体)

(3) 関心

全体の結果は表11の通りである。回答の詳細は紙幅の関係で略す。

年齢差が大きいのは次の項目である。「1. Jポップ」は10代、20代50代が高い。「2. 美術・絵画」は10代、50代が高い。「3. 伝統芸能」は50代が高い。「7. コンピュータゲーム・ビデオゲーム、及び、ゲーム機」と「10. タレント・歌手・俳優」は年齢が上がるに連れて関心が低くなる。逆に、年齢が上がるに連れて関心が高くなるのは「14. 名所旧跡」である。

レベル別に見ると、上位群が下位群より関心が高いのは「3. 伝統芸能」、「17. 経済・産業・企業」、「18. 政治外交・国際関係」、「19. 歴史」、「22. 日港関係」で、反対に下位群が高いのは、「4. ファッション」である。

全体の関心の高さの程度とその分散を視覚的に示すため、20%以上のものを網掛けで示している。

質問項目	1. とても関心がある	2. まあ関心がある	3. あまり関心がない	4. まったく関心がない
1. 音楽・歌謡・Jポップ・民謡	46.75	41.67	10.86	0.71
2. 美術・絵画	6.14	34.19	48.80	10.86
3. 伝統芸能	7.66	46.84	38.91	6.59
4. ファッション	30.99	45.95	17.90	5.16
5. 映画 テレビ番組 アニメ マンガ	68.74	28.76	2.32	0.18
6. 文芸	6.86	35.80	44.08	13.27
7. コンピュータゲーム・ビデオゲーム、及びゲーム機	30.45	38.38	23.42	7.75
8. スポーツ	5.25	28.50	48.80	17.45
9. 旅行	60.64	34.11	4.81	0.45
10. タレント 歌手・俳優	43.46	41.94	13.27	1.34
11. 食べ物・料理	61.62	35.08	3.21	0.09
12. 製品・商品	50.04	46.30	3.47	0.18
13. 自然・地理	24.40	52.27	20.84	2.49
14. 名所旧跡	29.56	54.14	14.43	1.87
15. 科学技術	14.87	47.73	32.77	4.63
16. 社会・生活・風習	32.68	59.04	7.75	0.53
17. 経済・産業・企業	7.66	40.43	42.56	9.35
18. 政治外交 国際関係	9.62	40.25	37.40	12.73
19. 歴史	15.23	44.97	34.11	5.70
20. 宗教	4.36	24.04	54.85	16.74
21. 日本語	76.76	22.35	0.80	0.09
22. 香港との関係	24.40	49.15	22.44	4.01

表11 日本への関心（全体）（％）

(4) 学習目的

全体の結果は表 12 の通りである。(1) 日本についての体験・経験、(2) 日本についての情報や知識の入手方法に比し、(4) 学習目的は年齢とレベルによる違いのある項目が多いため、表中に示す。詳細は添付資料 4 を参照されたい。

なお、項目 5. 6. 11. 12. 21 の 5 項目は、国際交流基金 (2007)、真鍋他 (2008) に無い、本調査で新たに追加した項目である。

「日本語でコミュニケーションができるようになりたい (97.95%)、日本語自身に興味がある (96.62%)、日本が好きだから (93.68%)、日本へ旅行に行くため (91.18%)」、これが、香港の日本語学習者の学習目的上位 4 項目である。

質問項目	全体の割合 (%)	年齢による違い	レベルによる違い
1. 日本の文化 (文学や歴史) を知りたい	73.55	30、40 代が低い	
2. 日本の文化 (アニメ、漫画、ポップカルチャー) を知りたい	89.75	年齢が上がるに連れて、低くなる	
3. 日本の政治・社会経済を知りたい	43.80		
4. 日本の科学技術を知りたい	38.38		
5. 日本の食べ物について知りたい	84.68		
6. 日本のファッションについて知りたい	73.11		下位群が高い
7. 大学や資格試験の受験の準備のため	39.54	10、20 代が高い	
8. 留学のため	37.31	10、20 代が高い	
9. 今の仕事のため	30.08	20 代が高い	上位群が高い
10. 就職のため	52.27	40、50 代が低い	上位群が高い
11. 日本で働きたいため	50.49	10、20 代が高い	
12. 昇進のため	27.16	40、50 代が低い	上位群が高い
13. 日本へ旅行に行くため	91.18		下位群が高い
14. 日本との親善・交流のため (短期訪問など)	52.54	10、20 代が高い	
15. 日本語でコミュニケーションができるようになりたい	97.95		

質問項目	全体の割合 (%)	年齢による違い	レベルによる違い
16. 継承語として学ぶため	7.30		上位群が高い
17. 日本語自身に興味がある	96.62		
18. 国際理解・異文化理解の一環として	67.85	50代が高い	
19. 家族・親族等周囲の人に勧められたため	23.60	年代が低いほど高い	
20. 学習機関で日本語を学ぶように定められているため (消極的参加)	2.40		
21. 日本が好きだから	93.68	50代が低い	

表 12 学習目的(全体)

(5) CEF 利用者

利用者は全体の 24.84%である。年代別に見ると、その中で 20 代の学習者が約半数を占めている。

年齢 (歳)	CEF 利用者
10-19	10
20-29	141
30-39	73
40-49	37
50-59	18
合計	279

表 13 CEF 利用者(年齢)

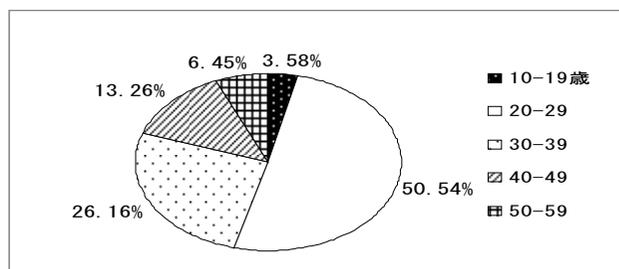


図 4 CEF 利用者の割合 (年齢)

レベル別に見ると、下位群の利用率が高く、初級中級段階での利用者の方が多いことが示唆される。

	CEF 利用者
上位群	117
下位群	162
合計	279

表 14 CEF 利用者（レベル）

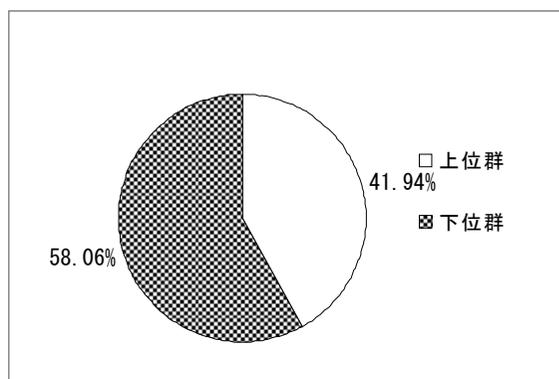


図 5 CEF 利用者の割合（レベル）

CEF 利用者を「学習の場」別に見ると、民間日本語学校の学習者が 73.12% を占め、多いことがわかる。

学習の場	CEF 利用者
大学 日本語専攻	26
大学 日本語専攻以外	31
民間日本語学校	204
その他	18
合計	279

表 14 CEF 利用者（学習の場）

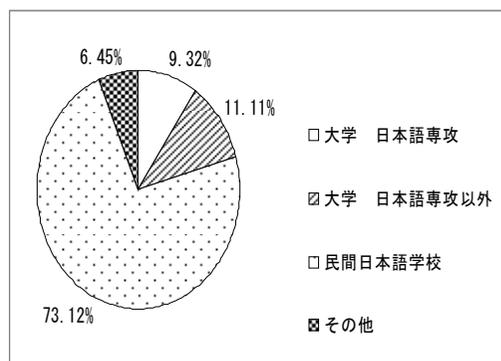


図 6 CEF 利用者の割合（学習の場）

CEF 制度は 18 歳以上の社会人のスキルアップ促進を目的にしているが、大学側が CEF 申請対象機関として登録している場合、大学内の受講料自己負担のコースで学ぶ大学生でも利用できる。

7. 結果のまとめ

7.1 全体として影響の大きいもの

体験・経験、関心において、非常に影響が強いのは、映画、ポップカルチャー、日本の製品・商品、食べ物である。学習目的では、ポップカルチャー、食べ物、旅行は大きな割合を占める。

体験・経験、関心、学習目的の面で非常に肯定的な回答の多かった観光旅行は、2004年より香港からビザなしで日本への観光旅行が可能になったことと関連が深いと思われる。

情報入手源は、雑誌、本、テレビ、映画館の映画、ビデオ、インターネットの利用率が高い。

年齢、レベルの差なく影響の大きいものは、学習を始めるきっかけにも、学習継続の意欲を高める要因にもなっていると考えられる。

7.2 年齢とレベルによる違い

年齢差：

体験・経験に表われた年齢差は、仕事に関連するものに10代20代が少ない点、20代30代の学習者に留学経験が多い点、ゲームで遊んだ経験が50代の学習者に少ない点以外に、特筆すべき差は見られない。

情報入手法では10代が「15. 家族から聞いて」の割合が他の世代より多く、「11. 政府機関の広報誌」、「14. 学校の授業、教科書」、「18. 日本政府観光局」の割合が低い。

関心では「14. 名所旧跡」が、年齢が上がるに連れて高くなり、「7. コンピュータゲーム・ビデオゲーム、及び、ゲーム機」と「10. タレント・歌手・俳優」が、年齢が下がるにつれて高くなる傾向がある。「2. 美術・絵画」で、他の世代より関心が高い点で10代と50代に共通する点がある。

学習目的のうち、全体として93.68%の「21. 好きだから」の中で、50代は相対的に割合が低く(81%)、他方、「18. 国際理解、異文化理解の一環として」では突出して高い(85%)。

レベル差：

上位群は下位群に比し、日本人と直接関わる体験が多い。また、「12. 在香港日本国総領事館」、「17. 香港日本語教育研究会」などを通じて情報を入手することができ、関心の点では、「3. 伝統芸能」「17. 経済、産業、企業」「18. 政治外交・国際関係」、「19. 歴史」、「22. 日港関係」など、より深い日本文化に関心をもっている、一方「10. タレント・歌手・俳優」への関心も強く(84.37%)、興味の範囲が広いともいえそうである。

学習目的の中では、仕事に関係のあるものは上位群の割合が高く、「6. ファッション」と「13. 旅行」は下位群が高い。「16. 継承語として学ぶ」学習者は全体の中では割合が小さいが、その中では上位群の割合が高い。

7.3 学習目的

「趣味」あるいは「情意的動機」ということばで特徴付けられてきた学習目的がより詳細に見えてきた。「趣味」の中に、ポップカルチャー、食べ物、日本製品、日本への観光という具体的な事

物や体験との関連が見て取れる。それらが、香港の日本語学習者の生活に溶け込んでいることと深い関係があるだろう。また、香港の人々と日本のポップカルチャーの親和性が高いことはもちろんであるが、10代20代の学習者は文学や歴史への関心も高い(73.71%、76.84%)という結果も見過ぎることができない。

7.4 CEF 利用者

協力者の中に占める割合は 24.84%と高くなかった。学習動機への影響が強いかな否かはさらなる分析が待たれる。

8. 今後の課題—教授法やカリキュラムへの提言に向けて—

今回の調査結果から、「日本語でのコミュニケーションを望み、日本を愛し、日本への旅行が好きな香港の学習者のために、身近なリソースを活用した教授カリキュラムが適しているのではないだろうか」あるいは、「食べ物への関心が高い学習者のために、料理に関連することばを学習しながら料理を作る／ビデオを見ながら疑似体験をする活動を取り入れる」などの提言が可能になると考える。提言のために今後は次の①から④を進めていきたい。

①分析

調査結果は現段階では単純集計、クロス集計したところである。今後、年齢差、レベル差などの個々のパラメータに統計的に有意な相関が存在するかを検定する必要がある。

②制度との関連への注目

香港には、日本語学習を直接間接的に後押しする制度として、2002年からの CEF 制度、2004年からのビザなしで観光旅行が可能になったこと、2010年1月から施行された香港と日本の間のワーキングホリデー協定がある。また、2009年9月より香港の後期中等教育「新高中課程」に日本語が選択科目として採用され、2012年度大学入学者から大学入学資格試験「香港中學文憑」(Hong Kong Diploma of Secondary Education: HKDSE)の選択科目として採用されることが決まっている。このコースを対象とした「多元學習津貼」(多様な学習を支援する補助金、Diversity Learning Grant: DLG)^{注7}という制度もある。これらの制度は体験・経験、情報入手源、関心、学習目的のすべてに影響を与えるものなので、今後も制度との関係を注視しなければならないだろう。

③年少者の状況把握

中等教育段階の日本語教育は制度の後押しもあり、活発になってきているが、まだ、能力試験を

受験するレベルに達するまでの例はわずかであり、今回の調査では中学生協力者はわずか7名で、中学生学習者の特徴を述べられる数が得られなかった。また、学校教育外の民間日本語学校での年少者コースは増加傾向にあるが、その数の把握も難しい。年少者の回答を得るにはインターネットでの調査には限界があり、新たな調査方法の検討が必要である。

④対面調査

本調査から、関心、目的の項で「日本語」そのものへの関心も強いこともわかったが、日本語という言語に対する意識をさらに掘り下げて探るためにはインタビューなどの対面調査が不可欠だろう。

謝辞

本調査の成果は、多くの個人および団体の皆さまのご理解とご協力により得られたものです。ここに時系列に記して感謝申し上げます。

予備調査：香港大学日本研究学科 中野嘉子准教授

同 リサーチアシスタント Joyce Leung 氏、Cyrus Chan 氏、

日本政府観光局香港事務所 田口一成所長 尾崎健一郎次長

調査票作成、及び、分析法：青山学院大学総合文化政策学部 真鍋一史教授

国際交流基金 企画評価課、企画調整課、試験センター

調査票作成：香港大学本研究学科 リサーチアシスタント Joyce Leung 氏

香港日本語教育研究会 事務局 黄淑敏氏、理事 阮亦光氏、

調査票イラスト作画：徳武今日子氏

システムの構築：MCLY Solutions Andy Yau 氏

協力者へのお礼プレゼント作成：香港日本語教育研究会 理事 阮亦光氏

広報：香港の日本語教育機関 関係者、香港日本国総領事館広報文化部

調査票回答：学習者のみなさん

データ分析：香港中文大学日本研究学科・同専業進修学院 野村和之氏

統計処理：MCLY Solutions Andy Yau 氏

報告書作成：元香港中文大学日本研究学科 助理教授 大野和敏氏

香港大学日本研究学科 村上史展准教授

注

1. 持続進修基金 (Continuing Education Fund) とは、香港政府が 18 歳から 65 歳までの成人を対象に、経営、観光、デザイン、外国語などの分野で認定された生涯学習コース、職業訓練コースを受講した場合に、1 万ドルを上限として学費の 80% を給付する制度。日本語の場合は、コースを受講して日本語能力試験、BJT ビジネス日本語能力テスト、General Certificate of Education (GCE) の A レベルテストのいずれかを受験して合格した場合に、コースの受講費と試験の費用の支給を受けることができる。詳しくは、次の URL を参照されたい。
<http://www.sfaa.gov.hk/cef/tips.htm> (2011 年 2 月 25 日参照)
2. 非受験者は自己申請により受験相当レベルを選択して答えることとした。添付資料 1 参照。
3. 国際交流基金「日本語能力試験受験案内」では「日本語学習の場」という用語が使われている。本調査では、特定の学習機関に属さない学習者も調査対象にしているため「学習機関」とせず、この用語を用いた。
4. 次の 3 種 (合計 10 件) の回答を無効とした。20 歳以上の年齢で現在の「学習の場」を中学校と答えているもの、5 歳で能力試験受験レベルを N1 と答えているもの、17 歳で CEF を申し込んだことがあると答えているもの。
5. 香港の中等教育は前期、後期を一貫して 7 年制の中学校 (Secondary School) で行っている。ただし、2006 年度入学生からは 6 年制である。
6. 会話能力試験、ACTFL (The American Council on the Teaching of Foreign Languages) の OPI (Oral Proficiency Interview) と日本語能力試験の相関を調査した横山ほか (2002) によると、日本語能力試験で測定する言語知識や能力は、OPI の「上級の上」レベルの学習者と「上級の中」レベルの学習者の間に大きな差がある。そして、「上級の上」レベルに達するには能力試験の 2 級レベルの言語知識が必要だとしている。2010 年からの新日本語能力試験は 5 レベルになったが、旧試験の 2 級は新試験の N2 に相当することから、上位下位を N2 と N3 の間で分けた。
7. Diversity Learning Grant (DLG) は、2009 年 9 月に開始した中等教育後期課程「新高中課程」 (New Senior Secondary) において、生徒の多様な学習を支援するために政府が中学校に支給する補助金である。「新高中課程」の日本語を採用した学校は生徒一人あたり年間 3500 ドルの支給を受けることができる。この補助金を、学校外から招いた講師の謝金に充当することができる。詳しくは、以下の URL を参照されたい。
http://www.edb.gov.hk/FileManager/EN/Content_7412/edbcm09042e.pdf
http://www.edb.gov.hk/FileManager/EN/Content_7412/edbcm%20no.13-2010e.pdf
(2011 年 2 月 25 日参照)

参考文献

- 板井美佐 (2001) 「香港における中国人学習者の日本語学習に対する動機(BF)、学習ST 及び学習活動上の好みに関する調査—香港4大学機関の調査から—」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』16号 83-104
- 小河原義朗、金田智子、笠井淳子 (2005) 「海外における学習者の学習環境と学習手段」『日本語科学』18, 111-123 国立国語研究所
- ギブソン壽美子 (2009) 「香港における社会人の日本語学習動機の一研究—動機の変化を中心に—」『第8回国際日本語教育・日本研究シンポジウム会議録 アジア・オセアニア地域における多文化共生社会と日本語教育・日本研究』182-188 向日葵出版社
- 国際交流基金 (2007) 「国際文化交流」の評価手法の開発研究 中間報告書：国際交流基金の韓国事業を対象とする第一次調査について」国際交流基金
- 国際交流基金 (2009) 「VI. 日本語使用行動および意識調査」『JF日本語スタンダード 試行版』247-257
- 国立国語研究所 (2005) 『平成16年度日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究 台湾アンケート調査集計結果報告書』
- 斉藤正雄 (1995) 「香港における日本語学習者の学習目的—総領事館日本語講座を例に—」『日本語教育ニュース』第7号、77-86 香港日本語教育研究会
- 日本政府観光局 (2011) 『JNTO 訪日外客訪問地調査2010』結果概要
http://www.jnto.go.jp/jpn/downloads/110126_houmonchi2010_attach.pdf (2011年2月25日参照)
- 原武道 (1994) 「香港大学の学生は日本語をなぜ学ぶのか そのタテマエとホンネ」『日本語教育ニュース』第6号、81-89 香港日本語教育研究会
- 真鍋一史、岡本真佐子、一寸木英多良 (2008) 「ドイツにおける国際交流基金 (Japan Foundation) の事業評価の分析：『一般市民』と「ケルン日本文化会館日本語講座受講者」との比較にもとづく諸知見」『関西学院大学社会学部紀要』第106号、109-160、関西学院大学
- 山口敏幸 (2004) 「香港における正規学校教育以外の日本語教育活動の概況」『海外における日本語教育活動の概況—現職者研修活動および学校外教育活動を中心にして—』日本語教育学会
- 横山紀子・木田真理・久保田美子 (2002) 「日本語能力試験と OPI による運用力分析—言語知識と運用力との関係を探る—」『日本語教育』第113号 日本語教育学会
- Humphreys, Gillian; Miyazoe-Wong, Yuko (2007) “So What is the Appeal?” The Phenomenon of Japanese as a Foreign Language in Hong Kong, Journal of Multilingual and Multicultural Development, Vol.28

2010年香港日本語学習者背景調査 Survey on the Background of Japanese Language Learners in Hong Kong 2010

この調査 について	協力者 資料	ページ	ページ	ページ	ページ	ページ	確認	完成 及び ダウンロード
		1	2	3	4	5		

2010年度能力試験応募者ログイン *	
ログイン名	
パスワード	
<input type="button" value="ログイン"/>	

協力者資料	
1. 生年	
2. 日本語能力試験受験級（または、受験想定級 **）	
3. 日本語学習の場	
4. 母語	
5. メールアドレス***	
<p>注：</p> <p>* 2010年日本語能力試験応募者以外の方、ログインIDとパスワードをご利用されない方は、協力者資料の5項目についてお答えください。</p> <p>応募者ログインは2010年7月試験、または、12月試験を申し込まれた方にご利用いただけます。</p> <p>ログインIDとパスワードをご利用されると、協力者資料の入力をスキップして調査項目のページに進めます。ログインして調査にご協力くださった方は、調査期間中に再ログインするたびにプレゼントダウンロードのページが開け、プレゼントを何度でもダウンロードすることができます。</p> <p>** 今、受験するとしたら何級ですか。</p> <p>*** メールアドレスは調査のフォローと調査結果発表のご連絡にだけ使わせていただきます。また、記入しなくても大丈夫ですが、この場合調査結果発表のご連絡がございません。</p>	

次のページへ

すべての項目に
答えないと
次に進めません

2010年香港日本語学習者背景調査 報告

添付資料2

(1) 日本についての体験・経験(年齢/項目番号)																		(%)
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
10-19	99.43	96.00	40.00	40.57	2.29	3.43	83.43	92.57	100.00	99.43	80.00	27.43	0.57	50.86	4.00	13.14	98.29	96.00
20-29	99.85	98.77	50.00	54.75	16.56	14.57	76.99	94.48	99.85	99.39	88.80	50.92	2.76	65.64	15.95	20.71	98.62	94.17
30-39	100.00	100.00	54.64	80.33	25.14	34.43	69.40	96.17	100.00	99.45	84.15	55.19	18.58	87.98	16.94	14.21	97.81	95.08
40-49	100.00	100.00	40.70	91.86	27.91	44.19	65.12	91.86	100.00	98.84	82.56	52.33	27.91	96.51	10.47	13.95	93.02	81.40
50-59	100.00	96.30	66.67	88.89	25.93	40.74	66.67	92.59	96.30	96.30	77.78	81.48	29.63	100.00	7.41	25.93	85.19	44.44
合計	99.82	98.58	48.89	60.37	16.83	18.97	75.60	94.21	99.82	99.29	85.93	48.80	7.57	70.17	13.62	18.08	97.68	92.43

(1) 日本についての体験・経験(レベル/項目番号)																		(%)
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
上位群	99.80	98.83	59.77	65.63	22.85	22.85	81.25	94.73	99.61	99.02	88.67	61.33	9.57	74.61	20.90	21.88	97.66	90.63
下位群	99.84	98.36	39.77	55.97	11.78	15.71	70.87	93.78	100.00	99.51	83.63	38.30	5.89	66.45	7.53	14.89	97.71	93.94
合計	99.82	98.58	48.89	60.37	16.83	18.97	75.60	94.21	99.82	99.29	85.93	48.80	7.57	70.17	13.62	18.08	97.68	92.43

添付資料3

(2) 情報の入手方法(年齢/項目番号)																		(%)
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
0-19	74.29	93.71	94.29	96.57	47.43	81.71	84.00	96.00	90.86	97.71	34.86	18.86	54.86	73.71	59.43	77.14	33.14	25.14
20-29	75.31	91.10	89.42	96.32	42.94	87.58	87.88	95.55	88.65	99.39	41.26	20.86	57.67	81.75	44.02	83.44	34.36	42.79
30-39	82.51	95.08	87.43	97.81	43.17	89.62	83.61	93.44	87.98	98.91	53.01	30.60	73.22	84.70	45.90	85.25	49.18	55.19
40-49	74.42	93.02	90.70	97.67	37.21	95.35	97.67	91.86	84.88	91.86	44.19	23.26	63.95	87.21	40.70	72.09	40.70	63.95
50-59	74.07	92.59	92.59	96.30	44.44	96.30	100.00	81.48	85.19	96.30	44.44	33.33	74.07	88.89	44.44	70.37	33.33	51.85
合計	76.22	92.34	90.03	96.71	43.28	87.80	87.62	94.66	88.51	98.40	42.48	22.62	60.64	81.57	46.48	81.57	37.04	43.90

(2) 情報の入手方法(レベル/項目番号)																		(%)
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
上位群	76.37	90.43	91.21	95.51	42.19	88.09	88.87	91.80	89.06	98.05	42.19	27.93	62.70	83.20	47.46	83.40	42.77	44.73
下位群	76.10	93.94	89.03	97.71	44.19	87.56	86.58	97.05	88.05	98.69	42.72	18.17	58.92	80.20	45.66	80.03	32.24	43.21
合計	76.22	92.34	90.03	96.71	43.28	87.80	87.62	94.66	88.51	98.40	42.48	22.62	60.64	81.57	46.48	81.57	37.04	43.90

添付資料4

(4) 学習目的(年齢/項目番号)																					(%)
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
10-19	73.71	93.14	41.14	40.00	84.57	74.29	46.29	60.57	25.71	46.86	64.00	24.00	88.57	60.57	97.71	41.14	95.43	69.71	34.29	0.00	96.57
20-29	76.84	92.18	48.62	38.04	85.28	77.15	43.56	41.56	34.51	61.20	57.21	28.99	91.72	57.82	98.77	48.62	96.63	68.87	22.55	2.91	93.56
30-39	65.03	87.43	32.79	42.08	83.61	63.39	27.87	15.85	28.96	42.08	34.97	30.05	91.26	37.16	95.08	32.79	97.81	59.56	20.22	2.73	94.54
40-49	65.12	77.91	39.53	33.72	83.72	65.12	22.09	11.63	24.42	29.07	18.60	17.44	93.02	32.56	97.67	39.53	97.67	68.60	19.77	2.33	90.70
50-59	77.78	62.96	33.33	25.93	81.48	59.26	33.33	11.11	18.52	14.81	7.41	14.81	88.89	40.74	100.00	33.33	92.59	85.19	14.81	3.70	81.48
合計	73.55	89.76	43.81	38.38	84.68	73.11	39.54	37.31	31.08	52.27	50.49	27.16	91.18	52.54	97.95	43.81	96.62	67.85	23.60	2.40	93.68

(4) 学習目的(レベル/質問項目)																					(%)
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
上位群	75.39	90.04	46.48	37.50	82.23	67.97	40.63	36.52	34.38	55.66	52.54	31.05	87.30	52.93	98.24	11.33	94.92	70.51	21.48	2.73	92.19
下位群	72.01	89.53	41.57	39.12	86.74	77.41	38.63	37.97	28.31	49.43	48.77	23.90	94.44	52.21	97.71	3.93	98.04	65.63	25.37	2.13	94.93
合計	73.55	89.76	43.81	38.38	84.68	73.11	39.54	37.31	31.08	52.27	50.49	27.16	91.18	52.54	97.95	7.30	96.62	67.85	23.60	2.40	93.68